



東北大学

東北大学の国際戦略

最先端の創造、大変革への挑戦

2019年9月10日

東北大学
国際戦略室

国際戦略の策定に寄せて

2018年7月、国際戦略室が総長直下の組織として設置されました。これは、開学以来脈々と培われてきた東北大学とその関係者による国際的な活動や国際ネットワークの形成を、より戦略的・機動的に推進することの必要性が強く認識されたことによります。

「東北大学の国際戦略」は、2018年11月策定の「東北大学ビジョン2030」で示された「戦略的な国際協働の深化（重点戦略⑰）」を実現すべく、さらなる国際化に向けた指針と行動計画を明示することを目的として策定したものです。

東北大学をはじめ、日本の大学を取り巻く国内外の環境は極めて厳しくありますが、同時に、「東北大学ビジョン2030」では、東北大学のミッションおよび活動の範疇が日常的に国を超えて世界にあり、グローバル大学としての歩みを進めていくのだという、我々の確信と決意を示しています。

グローバル大学として最先端の創造を担うためには、東北大学とその構成員が、世界の「教育」「研究」「産学連携」「社会課題の解決」に関わり、また、東北大学自身が国や地域と世界をつなぐ重要な架け橋としての役割を担うことが必要条件となります。東北大学には、一世紀以上の歴史をもつ、日本を代表する総合研究大学として未来へ挑戦し、「社会とともにある大学」としての責務を世界の大学等多様な関係者と協働して十分に果たしていくことが求められているのです。この責務を果たすために、総長のリーダーシップに基づく全学的かつ戦略的な取組と、東北大学の構成員・関係者の一人一人による自由闊達な国際的活動・国際連携との有機的な組み合わせによる、大学の諸活動における戦略的な国際協働の深化、そして包括的国際化を待たないで進めていく必要があります。

大学に対して、今日ほど、最先端の創造を先導する役割が期待されている時代もありません。行程は決して平たんなものではありませんが、東北大学は、この「国際戦略」およびこれに基づく行動計画を着実に実行することで、最先端の創造を担うグローバル大学の歩みを進めて行く覚悟です。本学構成員並びに様々な関係者の皆様のご協力とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



山口昌弘

東北大学国際戦略室長
副学長・教授

1. 国際戦略策定に至る経緯

東北大学は、1907年の創立以来、研究第一、門戸開放、実学尊重を基本理念として、日本を代表する研究総合大学としての歩みを重ねてきた。東北大学はその前身校の時代から留学生を積極的に受け入れ、国際的な研究交流を進めてきており、卓越した研究力を背景に国際的にも高い存在感を示してきた。また、政府の一連の国際化・国際連携支援事業に採択され、東北大学独自の国際化の取組を進める基盤を形成してきた。さらに、東北大学グローバルイニシアティブ構想諮問会議（東北大学国際アドバイザリーボード：以下、国際アドバイザリーボード）を設け、国際戦略形成への努力を重ねてきた。

2016年度には、国際連携推進機構長の下に国際戦略案策定作業部会が組織され、2018年4月に「東北大学の国際連携と教育国際化：今後の国際戦略策定に向けた提言」をまとめ、早期の東北大学国際戦略の明文化の必要性を指摘した。

2018年7月に総長直下の組織として国際戦略室が設立され、上記の蓄積のもとに作成したのが本「東北大学の国際戦略：最先端の創造、大変革への挑戦」（以下、「国際戦略」）である。

2. 国際戦略の位置づけ

東北大学は、2018年10月に今後の指針として「東北大学ビジョン2030 最先端の創造、大変革への挑戦」（以下「ビジョン」）を公表した。「ビジョン」では、東北大学のミッションとして、指導的人材を育成し、世界的に卓越した研究成果を創出して、平和で公正な人類社会の発展に貢献することを定め、「学生の挑戦心に応え、創造力を伸ばす教育を展開することにより、大変革時代の社会を世界的視野で力強く先導するリーダーを育成」（Vision 1: 教育）、「世界三十傑大学にふさわしい総合研究大学として、卓越した学術研究を通して知を創造するとともに、新たな学問領域の開拓とイノベーション創出を力強く推進」（Vision 2: 研究）、「社会とともにある大学として、多様なセクターとのパートナーシップのもと、新たな社会価値を創造し、未来を拓く変革を先導」（Vision 3: 社会との共創）、「卓越した教育研究を基盤として社会とともに成長する好循環の確立のため、大学経営を革新」（Vision 4: 経営革新）と、4つのビジョン項目のいずれもが国際的、グローバルな視野に立ったものとなっている。これは、東北大学が全学一体となり国際化を推進すること、また、すべての領域で構成員の一人ひとりが国際的な視野に立って行動することを宣言したことを意味している。

本「国際戦略」は、この「ビジョン」に基づいて策定されたものであり、その基本となる骨子は、「ビジョン」そのもののなかに「重点戦略⑩：戦略的な国際協働の深化」として組み込まれている。同「重点戦略」は、具体的には、下記の2項目から構成されている。

56. 世界から尊敬される三十傑大学としての国際協働の戦略的推進

世界から尊敬される三十傑大学をめざして東北大学の国際ブランド力を強化し、世界の大学、学術団体、産業界および市民等との戦略的パートナーシップに基づく国際協働を推進します。学内の多様な構成員による幅広い国際連携活動を基盤としつつ、「選択と集中」によって実効性を高めた国際戦略を策定・実行し、国際協働を深化させます。

57. セクションの壁を越えて全学一体となった包括的国際化の推進

これまで個別に進められてきた、教育、研究、産学共創、社会連携などに関する国際的活動を全学的に連携させ、包括的国際化（Comprehensive Internationalization）を推進します。出島的な国際化からの脱却を目指す取組みを加速するために各構成員の資質向上と意識改革を図るとともに、誰もが国際的活動に参画しやすい体制構築と環境整備を行うことによって、世界から尊敬される三十傑大学を目指す本学にふさわしい組織文化を醸成します。

3. 国際戦略の背景

東北大学が国際戦略を必要とする背景となる要因は、以下の通りである。

- 世界が大きな変革期を迎えており、大学が果たすべき国際的な役割が増大している。 経済のグローバリゼーションは留まるところを知らず進展し続けている。これと並行して、大学が立脚する国やローカル・コミュニティの存立基盤が知識の創出や知的人材の移動に大きな影響を受けるようになってきている。以上の状況下、大学は、その国際活動においてグローバル、リージョナル、ナショナル及びローカルそれぞれのコミュニティに対してどのように行動していくのか、その方向性を決める国際戦略を持つことが不可欠になってきている。また、第4次産業革命、デジタル革新等、イノベーションを軸とする産業構造の変化が世界規模で進行中であり、大学がこのような変化を先導すべく、知識の創造とイノベーションにおいて果たしうる国際的役割はきわめて大きい。さらに、「知識集約型社会」が発達しつつあるなかで、グローバルな次元で知識の共有・集約を進め、価値を創造し社会問題を解決するという新しい社会の中で活躍し、リードできるような人材を育成することが、大学に対して国際的責務として求められるようになってきている。
- 国内外の社会課題の解決に対して大学が果たすべき役割への期待が高まっている。 国連が掲げる持続可能な世界の実現のための国際開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) への取組や、仙台防災枠組みを中心とした地球規模の国際協働による災害対応や減災・復興への取組、さらには、パリ協定などの国境を越えた環境問題解決への貢献、そして、日本が世界に先駆けた超成熟社会として直面している高齢化・人口減少等への対応など、社会課題の多くが国境を越えて広がっており、同時に日本が世界に先駆けてこれらの社会課題に直面している現実がある。このようななかで、大学がこれらの国内外の社会課題の解決に対して果たすべき役割への期待が高まっている。
- 最先端の創造を担うグローバルな研究大学をめざす東北大学のアイデンティティの実現のためには、国際的な視野に立った戦略が必要不可欠である。 東北大学は、一世紀以上の歴史に立脚し、グローバルで最先端の知の創造を担う、日本を代表する総合研究大学として未来への挑戦を続けている。また、「社会とともにある大学」として、幅広い人材を受け入れ、実学に根ざした人材育成と知の創造で世界に貢献しようとしている。さらに、課題先進国・地域として高い潜在力を持つ日本・東北地方のグローバル社会への接続と発展を先導する役割を担っている。以上のような東北大学のアイデンティティの実現のためには、国際的な視野に立った戦略を明示し、それに基づくアクションを実行していく必要がある。

4. 国際戦略の方向性

東北大学は、国際戦略の方向性として、国際協働を深化させ、また、包括的国際化を通じて世界へ先導的に貢献することを掲げる。

- 国際協働の深化：東北大学は、世界的な視野を持つリーダーの育成、グローバルな公共財としての最先端の知の創造、国境を越えて展開する産学連携とにおいて、多様な学外パートナーとの国際協働を深化させることで先導的な役割を担い、国内外の先進社会課題の解決に貢献する。
- 包括的国際化の推進：東北大学に関わるあらゆる構成員が国際化を主体的に担い、世界の人材・資源・ネットワークのハブとなることで、「知識集約型社会」を先導する総合研究大学としての責務を果たす。

本「国際戦略」の主目的は、国際協働の深化と包括的国際化により東北大学のミッションとビジョンを高いレベルで実現することにある。このため、本「国際戦略」は、教育、研究、産学連携、社会課題の解決という東北大学の全活動領域に亘って、国際協働を深化させ、包括的国際化を推進するものとなっている。また、本「国際戦略」に対応する形で、4つのターゲットとその実現を支える2つのプロセスに分けて、具体的に取り組むべき「アクション」が示されている。総長直下の国際戦略室は、国際協働の深化と包括的国際化という2つのプロセスに重点を置いて諸活動を推進させることで、全学的な行動による各ターゲットの実現に貢献する。以上を通じ、総長のリーダーシップのもと、学内の多様な構成員による自由闊達な国際学術交流を開かれた形で推進、支援し、全学・部局独自の戦略に沿った国際展開を推進することで、全構成員の参加による国際協働の深化を促す組織文化を醸成させ、本学の「国際戦略」を着実に実行していく。

5. プロセス 1. 国際協働の深化

多様な学外パートナーと英知を結集し、自由闊達で有効な国際協働を戦略的に深化させる。

アクション

- 国際交流をより開かれた形で展開するため、国際学術交流協定の指針を明確化する
- 本学と互恵的關係を構築できる海外大学との戦略的パートナー制度を積極的に活用する
- 国際交流データを一元管理し、モニタリングや評価を通じた国際交流の活性化に活用する
- 海外拠点や大学間コンソーシアムを有効に活用する
- 学内外のネットワークを活用し、地域や国ごとに特徴ある国際交流を実施する
- 海外同窓会等の地域や世代を超えた東北大学海外ネットワークを充実させる
- 国際広報の展開により国際的プレゼンスを向上させる

プロセス 2. 包括的国際化の推進

国境を越えた「門戸開放」を通じ、世界の多様な人材・資源・ネットワークを惹きつけるハブとなる。

アクション

- 「門戸開放」の理念に基づき、国籍、宗教、人種、性別、年齢、障害、性自認・性的指向等の相違にとらわれない多様な価値観を認め合う大学コミュニティを形成し、構成員の多彩な能力を発揮できる環境を整備する
- 出島の国際化から脱却し、全学の諸活動に国際的視点を有する組織文化の醸成を目指し、全学キャンペーン、ネットワーキングを推進する
- 日英二言語体制を徹底し、非日本語話者が大学のあらゆる活動に主体的に参加し、貢献できる環境を整備する
- 国際通用性のある報酬体系や就労環境の実現を目指す
- 国際関係部署や委員会等を見直し、企画立案機能を強化し、意思決定を迅速化する

6. ターゲット 1. 世界的視野に立つ教育

国内外から優秀な学生・教員を惹きつけ、大変革時代の社会を世界的視野で力強く先導するリーダーを育成する。

アクション

- 国際学位コースの拡大を中心とした、優秀な留学生の積極的・戦略的な受け入れを拡大する
- グローバル社会を先導する人材の育成を基軸とした学士課程教育プログラムを改革する
- 国際共同大学院プログラムによる、世界最先端の研究及びプロフェッショナル教育と接続した国際協働教育を充実させる
- 国際共修を高年次や大学院まで拡大し、グローバルシティズンシップ、ダイバーシティへの確固たる理解と行動力を育成する
- 外国語運用能力の向上等を通じた学生の留学や国際キャリア支援を強化する
- 国立大学最大の収容力を持つユニバーシティハウス（国際混住寮）などを有効活用し、キャンパスの国際化を全学展開する

ターゲット 2. 世界最先端の研究

卓越した学術研究を通して知を創造、新たな学問領域の開拓とイノベーション創出を推進する。

アクション

- 本学が世界に卓越した強みを有する「材料科学」、「スピントロニクス」分野及び、世界に先駆けて創成すべき分野である「災害科学」、「未来型医療」分野で世界トップレベル研究拠点を形成する
- 本学が世界レベルのポテンシャルと研究資源を有する分野において、海外のパートナーとの協働を深め、世界を先導する国際研究クラスターを形成する
- 海外有力大学や研究機関と協力し、ジョイントラボやクロスアポイントメントを活用した研究のグローバル展開をはかる
- ダイバーシティの推進により開かれた研究環境を整備し、多様な構成員の自由闊達な研究交流・国際共同研究を支援する
- データや動向分析を踏まえた戦略的な国際共同研究の推進による国際プレゼンスの向上をはかる

ターゲット3. 国境を越えた産学連携

グローバルイノベーションキャンパスや国際ネットワークを舞台に、国際産学連携を展開する。

アクション

- ビジョン共創型パートナーシップに基づく、グローバル企業との大型産学連携を加速させる
- 東北大学流オープンイノベーションである B-U-B (Business-University-Business)モデルをグローバルに展開する
- 次世代放射光施設を活用した科学技術イノベーションを創成し、新青葉山キャンパスをグローバルイノベーションキャンパスにする
- 海外有力大学等との戦略的連携を通じて、グローバルに通用するアントレプレナーを育成支援する
- 国際的産学連携をリスクなく円滑に推進するため、知的財産の保護、国際契約及び安全保障輸出管理の体制を強化する

ターゲット4. 社会課題を解決して世界に貢献

「社会とともにある大学」として、多様な世界的社会課題の解決に向け先導的役割を果たす。

アクション

- 「仙台防災枠組み」での国連との連携、災害統計グローバルセンターの災害被害に関する情報の収集やアーカイブ化を通じて世界の防災能力向上へ貢献する
- 持続可能な世界の実現のための国際目標(SDGs) や世界的な環境変化への学際的国際共同研究への積極的参加や先導を通じ世界的社会課題の解決に貢献する
- 少子高齢化など、日本と東北が世界に先駆けて直面している先進的な社会課題について、「未来型医療」などの中核的研究拠点を活用し地元コミュニティと連携しながら国際共同研究とその発信を推進する